

# 猿江善隣館を問ふ

附屬幼稚園 志 村 貞 子

四月二十八日の午前と五月一日の午後と二回にわたつて猿江善隣館を參觀させていた。お忙しいところを度々御迷惑をおかけし恐縮に存じたことであるが、その都度御鄭重な御案内と御懇切な御説明を賜はつたことは誠に感謝にたへない。こゝにその參觀記を記すにあたり紙面をかりて厚く御禮を申上げる次第である。

猿江善隣館は市電住吉町一丁目下車して北約半町程行つたところにある。二十八日は他の團體見學の方々と御一緒であつたので、先づ講堂で館長先生から本館の沿革事業等について御話を伺つた。本館は隣保館として計畫設立されたものとしては東京附近に於ける最古のもので「善隣」の名稱は故澁澤子爵の命名ださうである。大正十一年六月に財團法人協調會によつて設立せられたが、開館一年餘で大震災の爲烏有に歸してしまつた。當時長くも、皇太后陛下より御見舞金一封下賜あらせられ、政府よりも復興資金を交附せられた。その後、附近の不良住宅地區改良を企畫した財團法人同潤會に譲渡せられて昭和五年四月、現在みる鐵筋コンクリート造三階建約二百五十坪の隣保館が竣工したのである。經營については西本願寺が委託をうけて大日本佛教慈善會財團がそ

の衝にあたり、竣工と同時に事業を開始してなされる。事業に就いては要目をあげるだけでも兒童部、教育部、經濟部、社會部、社交部、體育部、診療部の七部、細目四十六種の多岐に亘り、隣保地區居住者の生活の指導、鍊成、保護等にあたりその向上發展に盡してなられるのである。この附近は以前猿江のトンネル長屋といはれた地區である。その生活指導に當つては、先づ各人の居宅に行かれて、整理、整頓を手づから手傳はれたさうで或は家庭紛擾の調停、健康相談、母姉會の問題等々實生活に深く喰ひ込んだ人情味豊かなお話を伺ひ「何でももちこんでくるんですよ」との御言葉も眞にさこそと肯はれ、地區の人々にとつては大きな心の據りどころになつてゐるであらうことが誠に有難く感じられたのであつた。なほ隣保地區居住者について各個別に綿密な調査がなされカードに記録されてあることはこれらの指導にあつたつての重要な目安になることである。

ついで館内各室を御案内いたした。先づ健康診療室、こゝでツベルクリン反應検査、レントゲン検査等がなされ、專任の館醫が居られて兒童の診療にあたられてゐる。なほ診療部の事業として別に隣接のあそか病院受診委託の券を發行され、又濟生會住吉

診療所並公私病院其他に紹介の勞もとられてゐる。委託券には施療委託(無料)と輕費診療委託(半額)とがあつて受診希望者の經濟狀態を參照して發行されるのであるが、徒らに依頼心を起させざる結果にならぬやう深い配慮が必要であるとお話で、誠に一方ならぬ御骨折のことゝ思はれた。最も多い疾病は何かと伺ふと、從來は青少年の結核であつたが最近にいたり、乳幼児の麻疹、肺炎、チフテリア等が多くなつたとのことであつた。以前乳幼児の死亡率は母親の育児衛生知識が低かつた爲一五パーセントもあつたが、その後、指導により向上して死亡率皆無といふ喜ばしい結果をあげたが前述の病氣の爲、最近また少し増加しつゝあるといふお話で誠に惜しいことである。保育室は三室、こぢんまりとした明るい感じのお部屋である。他に一室、遊戯室兼劍道場(夜間)の廣い部屋を仕切つてこれにあてゝいらつしやり計四室からなつてゐる。お子さん達は皆お庭で元氣よく遊んでゐてお部屋には棚にきれいなバスケットの列がみられたよけであつた。幼稚園、保育園のお仕事については後で少しく記したいと思ふ。

こゝで階段を下りて地下の炊事場をみせていたゞく。幼児の榮養給食を拵へて居られるのである。お食事拵へは館内の藤影女學校(修業年限二年)の二年生が六人づゝ毎日交代でなさるさうで拜見した時は十一時頃であつたがもう美味しさうな五目御飯が出来上り、皆さんは器具や調理場の後始末をしてなれるところであつた。以前は獻立から買出しでしたが、昨今は市の特設市場から配給をうけてゐる。炊事場といつても普通の家庭の勝手と殆ど變らずたゞ規模がいくらか廣い程度である。これは館長先生のお言葉

であつたが「不完全な設備のもとでやらせてゐる。何故設備を整へないかといふと勿論豫算の都合もあることであるが、設備をしない方針——といふと大げさであるが——なのである。特別な設備がないと出来ないお料理を教へるのでは實際の家庭生活に役立たないからである。生徒も又母親も學校が舞臺で家庭は樂屋であるから舞臺でさへ立派なら樂屋でどんな我儘をいひまた甘やかしてもよいといふ從來あり勝な考へ方を根本から改めなければならぬ。學校は樂屋で家が舞臺なのである。學校での鍊成は舞臺である家、大きくは日本の國家にお役に立つやうにするにあるので學校でこれだけの仕事をする生徒を家で母親が甘やかしてはならないといふ事を強調してゐる。つまり生徒と共にその母親の教育も重んじてゐるのである。これでなければ教育の立派な成果をあげる事はむづかしい。」とお話、誠にさこそと感銘深く伺つたことであつた。「なほ炊事の實習にあつた生徒に對し特に補缺授業はなさない。これは無理のやうに思ふかもしれぬが、何處の學校も病氣缺席の生徒に補缺授業をしないのと同様である。缺席時間の分は自分達で研究し、不明の點は先生や友達に質問して自學自習してゐる。ましてその休むのは病氣の爲でなく、子供達への給食といふ有意義な仕事なのであるからそれの與へる精神的なすぐれた影響も又病氣缺席とは比べものにならないわけである。」といふお話であつた。また女學校の方達は直接に保育のお手傳はなさらないが、遊びの時間(運動場が一しよである)。及炊事實習等によつて子供達の扱ひ方も自然心得るといふことであつた。炊事場はもうすつかり片附けられて磨き上げられたお釜の縁が光つて美しかつ

た。次に階上にある兒童圖書館をみせていたゞ。蔵書冊數四六二五冊(十七年度)附近居住の子供達に貸出してゐる。以前は先生方が貸出の事務をとりれたさうであるが最近は兒童に責任を持たせてさせてなられ却つて紛失圖書等も少いとのことであつた。先づ信ずることですよ」とのお言葉、味ひ深く承つた。子供達の最も好むのは漫畫、講談本等で一體に低級なので先生方が子供常會に出席せられて讀書指導や紙芝居等をしてその向上をはかつていらつしやる。次に館長及職員の私室をお見せ下さつた。御家族と共にこの土地に生活してをられるのであつて、これでこそ眞にこの地區の人々の生活に亦心に入り込んでの指導も可能なのであり、指導を受ける者もこの土地に居られる先生方に身内のやうな親しさ懷しさを心から感じて何事でも持込まれて相談なさるのであらう。従つて事務所に居られる時のみならず御家の方にも人事問題の相談等が持ち込まれ、先生方は職場と御家庭との別なく常にこれらに應接指導せられるさうで、その御職身のお働きには自ら頭が下るのである。次に館に隣接の住吉アパートを見せていたとい

た。こゝには三百二十世帯、一千三百二十九人の居住者があるが、特にこの地區居住者には隣組常會を通じて先生方も組員の一人として御指導にあたつてをられるのである。なほ先に記したやうにこの地區居住者には各個別に精しい調査表が出来てなり、生計狀態により扶助をうけてゐる者もあるが、軍事扶助をうけてゐるのは名譽の應召者を出した〇〇世帯の中僅か九分の一弱の〇世帯であると同ひ、留守宅の健氣な御覺悟の程がしのべられた。なほ扶助をうけてをられる方々も、徒食する事なく前にある授産所で勤務

に従事し生活の維持向上に努力せられてゐるとのお話で實に力強いものを感じさせられたのであつた。また他の法律による扶助を受けてをられる世帯には出納簿に記入させることにより生活費の細目にわたり指導檢討を加へられてゐるのであつてその行届いた生活指導に敬服した。

アパートの階段を降りてふと見上げた三階の窓に紙製の小さい鯉のぼりが三匹勇しく翔つてゐた。親心が思はれて有難くまたこゝにも日本男兒ありの力強い感を覺えて心なうたれた。

善隣館に歸ると幼稚園児たちのおひるが始まるところで、列をつくつて楽しさうにおうがひをする姿がみられた。この日はこれで辭去したので、なほ保育の實際を參觀させていたときたく五月一日にまたくお邪魔したわけであつたが、この日も時間の都合で丁度お歸り前であつた爲、お子さんと遊ぶ折はなく残念であつた。こゝにお教へいたゞいた大體を記すが、以てこゝの保育の一端について御想像いただければ至らない參觀者として望外の幸せである。

本館の兒童部の事業の一つとして猿江善隣館幼稚園と同保育園がある。昭和五年九月二十三日に開設せられたもので、收容定員は満三歳以上の幼兒を、幼稚園が百二十名、保育園が五十名である。幼稚園は文部省令により、保育園は厚生省令によるものであるが、在籍簿にその別があるだけで保育においては全然區別せず、組の編成も兩者混淆して何等差別はしてゐないのである。地區的な必要から長時間保育を開館以來行つて來てゐるので毎日午前九時から午後四時といふことになつてゐるが家庭の都合によつては

更に長時間にわたつて預ることもあるさうである。この長時間保育といふことについては教育の理念からいへば種々論議があるところであらうが、早く家に歸された後の、子供達の生活を考へると、任意に放任して能事了れりとする事は教育精神にも反することであると思ふし、生活環境といふ地區的な必要から長時間保育を行つてゐるのであるとの御説明であつた。幼児を通じての家庭への手助け協力といふわけで、その結果は大變入園希望者が多く約五倍にも達するので、出征軍人遺家族、隣接アパート居住者、五大産業戦士の子弟を優先的に入れ、餘は抽籤によるといふ。かかる施設をもつと、増加しなければと思はせられる。保育料は月一圓であるが家庭の事情により減免せられる。免除といふ事は一面肩身の狭い思をさせるので、免除のものも出來た時貰ふといつておかれるさうで、親の心掛により三年後、七年後に保育料が出來たと持參する者もある等のお話を伺ひ、眞に細やかなお心遣ひだと感じた。

毎日の保育については、午前九時半に集會の鐘(青銅の古雅な板を槌で打つ)を合圖に遊戯室に整列し靜坐をする。靜坐といふのは、床の上に正坐して眼をどち氣持を落着けるのである。殊に日曜一日を自由に遊び廻つた月曜の朝は集るのにも騒がしいが靜坐をするとすつと落着くやうですとのお話であつた。それからお當番の先生によつて國民儀禮の後、前日の反省、その日守るべき事柄等につき御注意があり、お話や時にはお芝居をしていたゞくさうである。集會後は各室で保育がある。只今の在籍幼児数は百五十名で、松組五十二名と、藤組三十九名が最年長、梅組三十二名

が中間、桃組二十七名が新入園兒となつてゐる。年長組の方が年少組の方と手をつないだりして遊んであげてゐる様子は微笑ましい。泥いぢりと蟲遊びが今一番よろこばれてゐるさうである。一般兒童遊園と兼用の爲か、遊具が一體に大きすぎるやうにも思はれた。お晝食の時は女學校の方が盛付けたすませたのを、先生が部屋まで運ばれると、子供達が配るさうで先生のお手助をして何でもよくなさるやうである。家庭でお手傳になれてゐることもあらうが小さい時から勤勞をよるこぶ心持を養ふことは大切なことである。お部屋のお掃除は朝なさるさうであるが、どん／＼お手傳ひして拭いたり、掃いたりしてくるので助りますとおつしやつた。なほ三時にお入つをいたゞく。これも市から配給をうけてゐるものでその時により違ふがパン、やきもの、うち菓子、粉菓子、あめ等をいたゞく、四時までのお腹のたしになる程はないさうだが、子供たちにとつてどんなにか樂しみなものであらうと思はれる。またお入つは幼稚園でいたゞくから、お家でのお入つのお代は貯金しませうともいへるわけで貯金預入金額は五千百二圓(十七年度)に達してゐるさうである。私が伺つた時はもうお入つもすんで夫々遊んでいらつしやつた。子供達とさやうならをした後、先生方から實際の貴い御經驗の數々を伺はせていたゞき、單に幼児の保育にとゞまらず、幼兒を通じての母親の教育、家庭生活の指導といふ大きなお仕事を果されてゐることを誠に有難く存じ、その獻身の御生活に深く深く敬意を表する次第である。終りに諸先生方の一層の御健闘を祈り上げて冗長にわたつた筆を擱く。